

平成25年度病害虫発生予察指導情報

(ナシ・越冬害虫)

平成25年12月16日
鳥取県病害虫防除所

[ハダニ類]

1. 情報の内容

- (1) 県内巡回定点におけるカンザワハダニの越冬量は、1バンドあたり平均0頭(前年:0頭、平年:4.4頭)で、今回の調査では確認できなかった。
- (2) ナミハダニの越冬量は1バンド当たり0頭(前年:0頭、平年:0.0頭)で、今回の調査では確認できなかった。
- (3) クワオオハダニの休眠卵数は1短果枝当たり0.7個(前年:0.4個、平年:3.5個)と前年並で平年よりやや少ない。

表1 ナシにおけるハダニ類の越冬密度

調査地点	カンザワハダニ(成虫)			ナミハダニ(成虫)			クワオオハダニ(越冬卵)		
	本年	前年	平年 ¹	本年	前年	平年 ¹	本年	前年	平年 ¹
東部	鳥取市 佐治町	0	0	2.6	0	0	0	1.1	5.1
	鳥取市 青谷町	0	0	0.6	0	0	0	0	0.5
	八頭町	0	0	1.4	0	0	0	0	1.4
中部	倉吉市 中野	0	0	0.1	0	0	0	0	1.0
	湯梨浜町 別所	0	0	4.1	0	0	0.0	3.3	2.3
	北栄町 由良宿	0	0	0.9	0	0	0	2.7	9.4
	琴浦町 竹ノ内	0	0	1.0	0	0	0	0.0	6.4
西部	大山町 坪田	0	0	0.5	0	0	0	0	1.2
	南部町 朝金	0	0	28.5	0	0	0	0	4.0
県平均		0	0	4.4	0	0	0.0	0.7	3.5

¹: 平年はH15~24年の平均値

調査方法: 9月に紙バンドをほ場に設置。園あたり6バンド(1樹3バンド、2樹設置)。12月に紙バンドを回収後、バンドあたりのカンザワハダニ及びナミハダニ越冬個体数を調査。同時に園あたり40短果枝を採取し、短果枝あたりのクワオオハダニ越冬卵数を調査。

2. 防除上注意すべき事項

秋期にハダニ類の発生密度が高かった園では、越冬量が多いと予想されるため、休眠期の防除を徹底する。カンザワハダニ及びナミハダニには(1)~(3)、クワオオハダニには(3)が有効である。

(1) 誘殺バンドの取りはずし

主枝や亜主枝に誘殺バンドを設置している園では、12~2月にバンドを取りはずして処分する。

(2) 粗皮削り

12~2月に、カンザワハダニやナミハダニの越冬場所である粗皮を削り取る。特に、誘殺バンドを巻き付けた部分の粗皮は必ず削り取っておく。

(3) 薬剤散布

3月中旬に、マシン油乳剤(ハーベストオイル)50倍液を散布する。

[クサギカメムシ]

今年度から調査方法を変更しました。

1. 情報の内容

- (1) ベニヤ板トラップ調査によると、クサギカメムシの越冬成虫数は、1トラップあたり0.6頭であった。

表1 ベニヤ板トラップ調査*によるクサギカメムシの越冬量

調査地点	2013年
鳥取市河原町	0.5
八頭町	0
倉吉市関金町	0
湯梨浜町	0.5
北栄町	0
琴浦町	0
大山町	0
南部町	4.0
平均	0.6

*表中の数字は、1トラップあたりの成虫数を示す。設置数は2トラップ/地点

調査方法：9月下旬にベニヤ板トラップを各地点に設置。地点あたり2トラップ。
12月にトラップを回収後、トラップあたりのクサギカメムシ越冬個体数を調査。

(参考)

表2 簡易小屋トラップ調査によるクサギカメムシの越冬量*

調査地点	本年	前年	平年**
八頭町 花原	0	0	6.6
北栄町 由良宿	0	0	0.4

*表中の数字は、1トラップあたりの成虫数を示す。

** 平年はH15～24年の平均値。

2. 防除上注意すべき事項

- (1) クサギカメムシは、果樹園内の作業小屋などで越冬しているため、休眠期の防除対策として、3月までに小屋を清掃し、越冬成虫を必ず捕殺しておく。
- (2) 例年発生が多い園では、4月以降、定期的にはほ場を見回るなどして、春先の発生程度の把握に努める。